

後ノ准母アリ、此准母ハ多クハ内親王ナレド、希ニハ中宮等ニシテ准母タルアリ、准三宮ハ、准三后トモ准后トモ稱ス、三皇后ニ准ズルノ謂ナリ、是ハ女子ニ限ラズ、親王、法親王、大臣等、毎ニ此ニ居ル、蓋シ文徳天皇ノ朝ニ、藤原良房、三宮ニ准ジテ、年官ヲ賜ヒシヨリ起リシガ、後ニハ一ノ職名ノ如クナレリ、而シテ、后位ニ昇ラズシテ、女院タルモノハ、必ズ之ヲ經由スルヲ例トス、サテ此篇ニ就キテハ、女御、女院出家、山陵、外戚等ノ諸篇、及官位部ノ中宮職、院司等ノ篇ヲ參看スベシ、

稱呼

〔新撰字鏡〕女以之爲二反、嬪也、支佐支、

〔字鏡集〕十一后コキサキ

〔令義解〕七式皇后謂天子之嫡妻也、

〔西宮記〕臨時五皇后行啓略中宮長秋宮、或説、長秋者后宮總名云々、皇后總名也、但后宮四人御坐

之時、皇后宮職可被置歟云々、

〔拾芥抄〕中本后宮長秋宮、長信宮、繞母門、後宮、後庭、掖庭、椒房、皇后宮秋宮

中宮長秋宮、三千人、椒房、掖庭、椒庭、椒木、歌、昭陽殿、椒閣、宮掖、椒房、

〔古今和歌集〕卷一寬平御時ささいの宮の歌合のうた、略歌

〔築花物語〕三十七後七月七日五年中宮の御まへに、前裁にむらこの糸をひきて、いろくのたま

をつらぬきたり、略中女房、

まらつゆも玉をみがきて千代ふべき秋のみやにはつきせざりけり

〔八雲御抄〕三下后むらさきの雲、まりへのみや

〔漢官舊儀〕下皇后稱中宮

〔唐六典〕四禮部外命婦朝中宮爲皇后稱觴獻壽